



28年ぶりの大阪開催。日本IC開幕！！



第84回を迎えた天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会が、大阪市・ヤンマースタジアム長居で開幕する。

関東以外での開催は、熊本・KKウイングで行われた第80回大会以来4年ぶり。大阪での開催となると、吹田市の万博記念競技場で行われた1987年の第56回大会以来実に28年ぶりとなる。

バブル真ただ中、平成の足音も聞こえていなかった1987年に、ここ大阪の地で天皇賜盃を獲得したのは、筑波大学。走高跳で今も残る2m28の大会新記録をマークした井上基史らの活躍が光った。また、同年に女子総合優勝を果たし、秩父宮妃杯を獲得したのは、東京女子体育大学。200m、400m、800mのトラック3種目を制するなど、総合力での勝利だった。同大学は去年は総合2点で53位と低迷しているが、今年は石井明日夏が6月の日本学生個人円盤投で2位に入るなど活躍している。草創期の学生女子陸上界を牽引してきた彼女たちが再び大会を盛り上げてくることを期待したい。なお、1987年といえば、磯貝美奈子（群馬大）が走幅跳で現在も残る6m46の大会新記録をマークしたのもこの年であり、同年に走高跳で1m95の日本学生新記録を樹立した佐藤恵（福岡大）が同種目史上3人目の3連覇を果たすなど、跳躍競技が盛況であった年のようなのである。

さて、話を現在に戻すと、28年の間に学生陸上界の勢力図は大きく書き換えられてきた。男子では、日本大学

が3連覇中。今年も、関東ICで表彰台を独占した男子砲丸投陣、関東IC男子100mチャンピオンのケンブリッジ飛鳥など、トラック・フィールドともに強力な布陣で、同大学史上2度目の4連覇に向けて機は熟している。日本大学の4連覇を阻止しうる対抗馬としての最右翼、日本IC最多総合優勝を誇る順天堂大学は、主力の故障さえなければ十分に日本大学とも互角に戦える選手層を有する。

女子では、6連覇中の筑波大学が今年も戦力充実。1年生の時から2年連続大会新記録で女子やり投を制している久世生宝や、女子ハンマー投の勝山眸美など、強力なフィールド陣を中心に7連覇を狙う。

個人では、何と言っても男子100mの日本学生記録保持者である桐生祥秀（東洋大）の復帰レースに注目が集まる。今年の男子短距離は、ユニバーシアード4×100mRで12年ぶり金メダルを獲得するなど充実しており、桐生も加わって白熱の勝負が予想される。

いずれにせよ、今年も、大学同士の意地と意地がぶつかりあう「大阪夏の陣」から目が離せない。

DATA TRIVIA

①これまで9月11日～13日の日程で行われた日本ICは、1992年の第61回大会と1998年の第67回大会の2度。いずれも男子は日本大学、女子は筑波大学が総合優勝した。

②1965年の第34回大会は、9月11日に長居で開催した。この時の男子総合優勝も日本大学であり、同大学は、①と合わせて9月11日開幕の日本ICでは3戦負けなし。

③今大会のエントリー選手で、前回大阪で行われた1987年大会当時生まれていた選手はいない。最年長は、同大会開幕のちょうど8ヶ月後、1988年2月5日に生まれた飯野摩耶（東京農業大）。

NEWS FLASH、毎日配付します。

前日の優勝者コメントから当日の見どころまで、充実の内容。

希望者は、プログラムを持ってインフォメーション・センターまで！！

大会第1日の見どころ CHECKPOINTS OF DAY 1

朝から早速トラック競技の決勝が始まる。1発目の決勝種目、女子10000mWでは、五藤怜奈（中部学院大）が、1年生の時から学生の全国大会負けなしの5連勝を狙う。

13：40からの男子100m予選には、日本学生記録保持者の桐生祥秀（東洋大）がエントリー。故障からの復帰レースに注目が集まる。

さらに、昼からはトラック・フィールドともに続々と決勝が行われる。男子3000mSCでは、津田修也（筑波大）が同種目史上2人目の3連覇を狙う。男子三段跳では、山本凌雅（順天堂大）が、ジュニア日本記録にあと1cmと迫る好記録で優勝した昨年続く2連覇を目指す。

そして、男女100mの準決勝を経たのち、夕方には男女400m、そして男女10000mの決勝が立て続けに行われる。女子400mでは、8月の北京世界選手権で4×400mRの日本記録保持者となった青山聖佳（大阪成蹊大）が1年生Vを果たすか。男子400mも、7月のユニバーシアード4×400mR銀メダルメンバーに、世界選手権4×400mRメンバーの小林直己（東海大）が加わってくると史上最高レベルのレースになるかもしれない。男女10000mにも有力選手が多数エントリーしており、特に女子は、ユニバーシアードハーフマラソン銀メダルの菅野七虹（立命館大）、銅メダルの上原明悠美（松山大）などを中心にハイレベルな戦いが予想される。



五藤怜奈（中部学院大）



菅野七虹（立命館大）（左）
上原明悠美（松山大）（右）

大会第1日の競技日程 TIME TABLE OF DAY 1

《トラック競技》

9：00	十種 100m	
9：20	女子 10000mW	決勝
10：30	女子 4×100mR	予選
10：50	男子 4×100mR	予選
11：25	女子 1500m	予選
11：45	男子 1500m	予選
12：10	女子 400m	予選
12：30	男子 400m	予選
13：00	女子 100m	予選
13：40	男子 100m	予選
14：20	男子 3000mSC	決勝
14：50	女子 1500m	決勝
15：10	女子 1500m	決勝
15：20	女子 100m	準決勝
15：45	男子 100m	準決勝
16：10	女子 400m	決勝
16：20	男子 400m	決勝
16：30	十種 400m	
16：50	女子 10000m	決勝
17：40	男子 10000m	決勝

《跳躍競技》

10：30	十種 走幅跳	
11：00	女子 走高跳	決勝
11：00	女子 棒高跳	決勝
14：30	十種 走高跳	
14：30	男子 三段跳	決勝

《投てき競技》

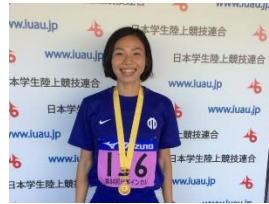
13：00	男子 円盤投	決勝
16：00	女子 円盤投	決勝

《投てき競技【ヤンマーフィールド長居】》

9：00	男子 円盤投	予選
11：30	女子 円盤投	予選
13：00	十種 砲丸投	
14：00	女子 ハンマー投	予選
16：30	男子 ハンマー投	予選



大会第1日の優勝者 WINNERS OF DAY 1



【女子10000mW】

五藤 怜奈
(中部学院大)

45:52.67

自分の力を出せば優勝できると思い、楽しんで歩けた。今後女子競歩も注目されるように頑張りたい。

【男子3000mSC】

塩尻 和也
(順天堂大)

8:42.80

前半飛ばしてラスト逃げ切るというレースができた。今後は4連覇できるように頑張っていきたい。

【女子1500m】

小山 香子
(順天堂大)

4:21.33

すごく楽しかった。今後はチームが関東女子駅伝、全日本女子駅伝で入賞できるように頑張りたい。

【男子1500m】

井上 弘也
(上武大)

3:51.26

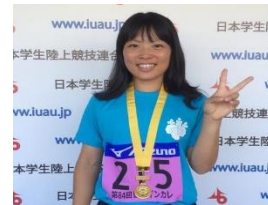
最後の1周で前に出たときに優勝を確信した。今後は箱根のシード権獲得の立役者になりたい。

【女子400m】

青山 聖佳
(大阪成蹊大)

53.33

決勝ではジュニア記録を目標でしたが出せなかったのが国体ではジュニア新記録を狙いたい。



【男子400m】

北川 貴理
(順天堂大)

46.34

世界を経験できたことが自分には大きいので経験を生かし、来年のリオを目指したい。

【女子10000m】

鍋島 莉奈
(鹿屋体育大)

33:18.69

春は怪我をしていたので復活のアピールができて嬉しい。いろいろな人の分まで走れてよかった。

【男子10000m】

P. M. ワンブイ
(日本大)

28:21.80

最後の3人になってから2人に挑戦するつもりで挑んだ。今後の目標は東京オリンピック出場。

【女子走高跳】

相馬 由佳
(愛知教育大)

1m76

最後の日本インカレなので後輩に負けずに1番をとりたいと思い頑張った。国体でも優勝を狙いたい。

【女子棒高跳】

榎本 優子
(筑波大)

3m80

プレッシャーや怪我など不安が多かったが最後のインカレということで競技を楽しむことができてよかった。



【男子三段跳】

戸塚 優太
(東洋大)

15m80 (+1.6)

記録は不甲斐無いが優勝できてよかった。自分は無名ですがこの結果は自宅でも鍛錬してきたからだと思う。今後の目標は東洋大記録の更新。

【男子円盤投】

米沢 茂友樹
(東海大)

54m14

練習では調子が悪かったが修正していい記録になって良かった。今後は来年の日本選手権と地元で行われる国体での優勝を目指して頑張りたい。

【女子円盤投】

藤森 夏美
(順天堂大)

50m38

今日は絶対優勝しようと思っていたので、優勝できて満足。今後は今シーズン中に54mを投げ、最終的には60mを投げたい。

DATA TRIVIA

- ①女子10000mWで優勝した五藤怜奈(中部学院大)は、1年生から、日本学生個人、日本IC、日本学生20km競歩選手権の学生全国大会で負けなしの5連勝。1年生から、学生の全国大会にすべて出場して5連勝するのは史上初。
- ②男子3000mSCを制した塩尻和也(順天堂大)は、同大学史上男女合わせてちょうど200人目の種目別優勝者。種目別優勝者が200名を超えるのは、過去5大学目。
- ③青山聖佳(大阪成蹊大)が女子400mを制したのは、大阪成蹊大学史上初の日本IC種目別優勝。種目別優勝を果たした大学は史上121大学目。

大会第2日の見どころ CHECKPOINTS OF DAY 2

午前中のトラック競技は、予選を中心に展開する。10:15からの男子110mH予選には、7月のユニバーシアードで日本人初のメダルを獲得した増野元太（国際武道大）が登場。さらに11:10からは、ユニバーシアード4×100mR金メダルメンバーが複数出場する男子200m予選もあり、過去最高レベルの成績をあげたユニバーシアード代表が、学生タイトルを懸けて激突する。

フィールドでは、午前中から決勝が行われる。女子ハンマー投では、関東学生記録保持者の勝山眸美（筑波大）が連覇に挑む。

午後には、トラック競技で本日最初の決勝種目にして、本大会の最注目種目といっても過言ではない、男女の100mが行われる。男子100mで第1日の準決勝をトップの成績で通過したのは桐生祥秀（東洋大学）の10秒30だが、今季好調の長田拓也（法政大）、大瀬戸一馬（法政大）らがどこまで迫れるか。

さらに、夕方からは、男女4×100mRの決勝、男女5000mの決勝と続く。男子4×100mRは、第1日の予選記録トップの中央大と、資格記録ランキング1位の法政大の、ユニバーシアード4×100mR金メダルメンバーをそれぞれ2人ずつ擁するチームの対決は、史上最高レベルになるかもしれない。女子5000mは、1年生から負けなしの3連覇に、大森菜月（立命館大）が挑む。



大会第2日の競技日程 TIME TABLE OF DAY 2

《トラック競技》

9:00	十種 110mH	
9:20	七種 100mH	
9:40	女子 100mH	予選
10:15	男子 110mH	予選
10:40	女子 200m	予選
11:10	男子 200m	予選
11:45	女子 800m	予選
12:15	男子 800m	予選
13:00	女子 400mH	予選
13:30	男子 400mH	予選
14:00	女子 100m	決勝
14:10	男子 100m	決勝
14:20	女子 3000mSC	予選
14:50	女子 4×400mR	予選
15:25	男子 4×400mR	予選
16:10	女子 800m	準決勝
16:30	男子 800m	準決勝
16:55	七種 200m	
17:15	女子 4×100mR	決勝
17:25	男子 4×100mR	決勝
17:35	十種 1500m	
17:50	女子 5000m	決勝
18:15	男子 5000m	決勝

《跳躍競技》

10:00	女子 三段跳	決勝
12:00	十種 棒高跳	
13:00	男子 走幅跳	決勝

《跳躍競技【ヤンマーフィールド長居】》

10:30	七種 走高跳	
-------	--------	--

《投てき競技》

9:30	女子 ハンマー投	決勝
12:00	男子 ハンマー投	決勝
14:00	女子 砲丸投	決勝
16:30	男子 砲丸投	決勝

《投てき競技【ヤンマーフィールド長居】》

9:00	女子 砲丸投	予選
10:15	十種 円盤投	
11:00	男子 砲丸投	予選
12:00	女子 やり投	予選
13:30	七種 砲丸投	
15:00	十種 やり投	



大会第2日の優勝者 WINNERS OF DAY 2



【女子100m】

土井 杏南
(大東文化大)
11.74 (+0.6)
記録も狙おうと思ったが昨年出ていない分優勝を狙った。国体では記録を狙って自分らしく走りたい。

【男子100m】

桐生 祥秀
(東洋大)
10.19 (+0.5)
狙っていたリオの標準を切りたかったが駄目だった。自己ベストを早めにせるよう頑張る。

【女子4×100mR】

**立命館大
山中-野林-
本村-小山 45.40**
バトンに不安があったが優勝できて嬉し。日本選手権では焦らずに段階を登っていきたい。

【男子4×100mR】

**中央大
諏訪-谷口-
猶木-女部田 39.15**
3連覇を達成できてよかった。学生記録を狙っていたのにバトンをミスしたが優勝できてよかった。

【男子十種競技】

清水 剛士
(中京大)
7697点
1500mでは勝てると思って走ったので、悔しかった。体格差がある中で優勝できて良かった。



【女子5000m】

新井 沙紀枝
(大阪学院大)
15:56.21
涼しい環境でのレースで楽に走れた。駅伝に向けてライバルに負けないように練習していきたい。

【男子5000m】

服部 弾馬
(東洋大)
13:38.45
予想通りの展開でスタートも思い通りだった。駅伝に向けて、距離を伸ばして体作りをしたい。

【女子三段跳】

中川 秋奈
(九州共立大)
12m79 (-0.6)
皆さんの手拍子でリラックスして臨めたので感謝してる。国体の走幅跳に向けて頑張っていきたい。

【男子走幅跳】

小田 大樹
(日本大)
7m75 (+1.0)
8mを狙っていたが優勝出来て良かった。国体ではしっかりと記録を狙い、8mを跳びたい。

【女子ハンマー投】

福島 美沙希
(九州共立大)
59m89
学生最後のインカレで優勝できたことはすごく嬉しいが、記録だけを見るとまだまだ満足がいかない。



【男子ハンマー投】

保坂 雄志郎
(筑波大)
68m50
70mの自己記録を目指した中での68mだったが結果には満足している。今後は継続的に70mを投げ、最終的に75mを投げられるようになりたい。

【女子砲丸投】

太田 亜矢
(福岡大)
15m72
1本目にベストを出して流れは良かったがその後記録を狙って投げ急いでしまいうまい試合展開に出来なかった。今シーズン中に16mを投げたい。

【男子砲丸投】

鈴木 愛勇
(日本大)
17m12
優勝できてよかったが、あと3cmで自己ベストだったので悔しい。日本ICには来年もまた出られるので、そこに向けて頑張りたい。

DATA TRIVIA

- ①男子100mを制した桐生祥秀(東洋大)の記録、10.19は、日本IC歴代3位タイの記録。過去に決勝において10.1台の記録を出したのは、2000年川畑伸吾(法政大)の10.11、同年末續慎吾(東海大)の10.19と2009年江里口匡史(早稲田大)の10.13の3名のみ。
- ②男子4×100mRを2連覇した中央大のオーダー「諏訪-谷口-猶木-女部田」は、昨年と全く同じオーダー。男子4×100mRを全く同じオーダーで2連覇したのは、1937~38年に2連覇した慶應義塾大(今井-湯浅-金田-井後)以来、77年ぶり、史上2回目。

大会第3日の見どころ CHECKPOINTS OF DAY 3

いよいよ最終日。朝一番で、男子10000mW決勝が行われる。世界レベルに達した日本競歩界の次世代を引っ張る選手が、トラックで激突する。7月のユニバーシアード銅メダリストの松永大介（東洋大）らが、世界水準の歩きを見せられるか。

フィールドでも、朝から注目種目が多数。男子走高跳は、8月の世界選手権に学生として唯一単独種目の代表に選ばれた平松祐司（筑波大）が出場。大舞台に強く、自己新、そして筑波大の2人の先輩が持つ大会記録の更新も狙う。女子やり投もタレントが揃う。学生歴代2位の自己記録を持ち、日本IC2連覇中の久世生宝（筑波大）、今季学生ランキングトップで、学生歴代3位の記録を持つ山内愛（大阪成蹊大）だけでなく、予選トップ通過の斉藤真理菜（国土館大）など若い力の台頭も激しく、ハイレベルな戦いとなりそう。

昼からはトラック・フィールドともに決勝ラッシュ。男子200mは、昨日の予選ではユニバーシアード代表選手をはじめとする有力選手は順当に予選を通過しており、充実の学生男子短距離界を象徴する好レースに期待。13:50から最終800mが行われる七種競技では、日本学生記録保持者のヘンプヒル恵（中央大）が、4種目終了時点で現在トップ。自らの記録にも挑む。

そして最終種目の男女4×400mR。勝ったチームも敗れたチームも、すべての選手が、チームのため、仲間のために、最後の力を振り絞る姿を目に焼き付けてほしい。

さらに、最終日になってますます気になるのは、対校得点争い。第2日終了時点で男子は砲丸投で16点を獲得するなど抜群の層の厚さを誇る日本大、女子は4×100mRを制した立命館大がトップだが、17種目の決勝が行われる最終日、最後の最後まで目が離せない。



大会第3日の競技日程 TIME TABLE OF DAY 3

《トラック競技》

9:00	男子 10000mW	決勝
9:55	女子 200m	準決勝
10:20	男子 200m	準決勝
10:45	女子 3000mSC	決勝
11:10	女子 100mH	準決勝
11:35	男子 110mH	準決勝
11:55	女子 800m	決勝
12:05	男子 800m	決勝
12:30	女子 400mH	決勝
12:40	男子 400mH	決勝
12:55	女子 200m	決勝
13:05	男子 200m	決勝
13:20	女子 100mH	決勝
13:35	男子 110mH	決勝
13:50	七種 800m	
14:15	女子 4×400mR	決勝
14:30	男子 4×400mR	決勝

《跳躍競技》

9:00	七種 走幅跳	
10:30	男子 棒高跳	決勝
10:30	男子 走高跳	決勝
11:00	女子 走幅跳	決勝

《投てき競技》

9:30	女子 やり投	決勝
13:00	男子 やり投	決勝

《投てき競技【ヤンマーフィールド長居】》

9:30	男子 やり投	予選
11:45	七種 やり投	

3日目の優勝者等を掲載したNEWS FLASHは、大会終了後以下のURLに掲載します！ぜひご覧ください！

http://www.iuau.jp/ev2015/84ic/84ic_NF.pdf





大会第3日の優勝者 WINNERS OF DAY 3



【男子10000mW】

松永 大介
(東洋大)

39:18.04 NGR

素直に勝てて良かった。ラスト2000mは気持ちでいった。今後学生に負ける気はない。

【女子3000mSC】

三島 美咲
(松山大)

10:05.94

今年は練習も積み自信があったので優勝を狙っていた。今後は日本一をとれるように頑張りたい。

【女子800m】

山田 はな
(東京学芸大)

2:07.77

自分らしいスローな入りで後半上げるレースだった。今後は4×800mRの日本記録を出すことが目標

【男子800m】

新安 直人
(順天堂大)

1:50.43

最後の日本ICで悔いのないレースをしたかったが、自分の得意な展開と違う展開で勝てたのは嬉しい。

【女子400mH】

藤原 未来
(武庫川女子大)

57.71

400mHは初めての全国で、ランキングトップでプレッシャーもあったが気にしないで臨んだ。



【男子400mH】

橋本 孝興
(日本大)

49.89

去年迷惑をかけたのに応援してくれる皆さんのおかげで勝つことが出来た。目標はリオに出ること。

【女子200m】

青山 聖佳
(大阪成蹊大)

23.81 (-0.2m)

200mが一番好きで思い入れがあるので大きな舞台で優勝できて良かった。多くの記録を更新したい。

【男子200m】

長田 拓也
(法政大)

20.57 (-0.6m)

表彰台の一番高い所の景色は良かった。ユニバ、世界選手権での経験が今回に活きたと思う。

【女子100mH】

藤原 未来
(武庫川女子大)

13.48 (+0.0m)

連覇というプレッシャーの中、気にせずレースに集中して挑んだ。来年は三連覇を目指したい。

【男子110mH】

礼場 大輝
(国際武道大)

13.88 (+0.4m)

4年生の意地と地元で勝ちたいという思いがあったので勝つて良かった。



【女子七種競技】

ヘンピル 恵
(中央大)

5448点

とても疲れたが優勝できて嬉しい。疲れを取って今後は6000点を狙って頑張りたい。また来年も連覇をしたい。

【女子4×400mR】

大阪成蹊大
吉見-島岡-
伊藤-青山

3:38.90

初めてこのメンバーで走り、今日のこの結果だった。今後は日本選手権リレーに向けてまた頑張りたい。

【男子4×400mR】

順天堂大
板鼻-北川-

野口-油井

3:06.79
24年ぶりに優勝できた。メンバーの四人、部員合わせて喜んでいる。4年生がいないうチームなので、連覇を目指し、また学生記録を狙いたい。

【男子棒高跳】

山本 智貴
(日本体育大)

5m40

やれることを最大限やり切ろうと思い試合に臨んだ。優勝出来てホッとしている。今後は日本選手権優勝を目標に頑張りたい。

【男子走高跳】

赤松 諒一
(岐阜大)

2m25

今回は自己ベストを狙って7cmも更新でき、自分でも驚いている。今回2m25を跳べたので今後は2m20以上をコンスタントに出せるようになるようにしたい。



DATA TRIVIA

- ①藤原未来(武庫川女子大)が100mHと400mHで2冠を達成したが、この組み合わせでの2冠は、平成2年に女子400mHが日本ICに取り入れられて以降初めて。
- ②男子走高跳では、赤松諒一(岐阜大)が優勝。岐阜大勢の男子種目の優勝は、平成元年の第58回大会で桑野暁がやり投を制して以来史上2人目。
- ③女子総合の部は、立命館大が2位の筑波大との差1点差で優勝。1点差での勝利は、福島大が筑波大と同得点ながら種目別の優勝数の差で総合優勝を勝ち取った第77回大会以来の僅差。

【女子走幅跳】
福西 穂乃佳
(京都教育大)

6m13 (-0.3m)
優勝出来て嬉しいです。目標は最低でも関西大学生新6m22を狙いたい。また日本選手権では上位入賞を目指したい。

【女子やり投】
斉藤 真理菜
(国士館大)

55m99
優勝は嬉しいが、思っていた記録が出ず悔しい。今後は国体で58mを、OBOGの先輩方に追いつきたい。

【男子やり投】
中西 啄真
(大阪体育大)

74m67
全カレでもう一度連覇を狙いたい。また日本選手権で学生チャンピオンということで上位に入りたい。

対校成績 TEAM SCORES

《男子》

【総合の部】 【トラックの部】

1位 日本大
87点

1位 順天堂大
56点

2位 順天堂大
69点

2位 早稲田大
51.5点

3位 早稲田大
51.5点

3位 日本大
44点

【混成の部】 【フィールドの部】

1位 中京大
8点

1位 日本大
43点

2位 環太平洋大
7点

2位 筑波大
36点

3位 関西学院大
7点

3位 東海大
32.5点

【多種目優勝】

日本大、順天堂大、東洋大 4種目

《女子》

【総合の部】 【トラックの部】

1位 立命館大
67点

1位 立命館大
53点

2位 筑波大
66点

2位 大阪成蹊大
47点

3位 大阪成蹊大
54点

3位 大東文化大
24点

【混成の部】 【フィールドの部】

1位 中央大
8点

1位 筑波大
40点

2位 立命館大
7点

2位 九州共立大
27点

3位 園田学園女子大
6点

3位 国士館大
23点

【多種目優勝】

大阪成蹊大 3種目



NEXT JAPAN-IC NEWS

第85回日本ICは、

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われます。
来年また、埼玉でお会いしましょう。皆様、お楽しみに！